

幼珠連通信

2009.9.15第214号

全国幼児珠算教育連盟
発行責任者 大西信二

ボクできちゃった 会長 井上 文克

昭和47年9月25日日本放送出版協会発行 著者シーグフ
リド・エンゲルマン夫妻（編訳者 筑馬大学助教授 松原達哉
先生）、内容は小学就学前に、たし算、ひき算、かけ算、面積、
時間、分数、わり算、お金、縦がきのたし算、縦がきのひき算、
算数で使う記号、かけ算とわり算のすべての基礎教育を終了し、
空間の推理、距離の判断、方角、地図、お話からの推理までの
指導法、プログラムの掲載されたもので 当時、NHKの幼児
番組として始まった『セサミ・ストリート』の種本としても活用されたものである。

私は来年3月米寿を迎える記念に、今回この教育内容の一部を小路幼稚園で実践中であり、その成果を来春に発表したいと思っている。

この本の刊行案内の一部をご紹介します。

『健康で情操ゆたかな知能のすぐれた子どもに育てほしいと、母親のだれもが願っていると思います。その知的能力の中でも、数能力は人間が生活する上で、とても大事なものであることはいまでもありません。わが国では幼児の算数教育は、教育機関でも家庭でも、たいへんむずかしいものと思われてきました。その結果が、算数をおろそかにしてしまい、また、誤りをまねている、といえるでしょう。ですが幼児期にはむずかしいからと、ほんとうに教えなくてよいものなののでしょうか。幼児期は、人間の一生のうちで、いちばん知能が発達するときです。その発達の仕方は、きのうできなかったことが、きょうは何の努力もなしにやっけてのける、というふうに、目をみはらせるほどです。お母さんの中には幼児期に算数教育をするのは、とても無理だと思われる方が多いかもしれませんが、知能がぐんぐん伸びている時期に、その発達に合わせた適切な方法で教えれば、けっしてむずかしいものではないのです。あえていえば、問題は、教えるためのよい指導書が少なかつただけ といえるでしょう。

本書は、エンゲルマン夫妻が経験と研究に基づいてつくった、一才半から五才までの、系統だった算数教育のプログラムです。それは、子どもが、ただわけもわからず『いち、にい、さん・・・』というような状態から、実際に物をかぞえるようになり、さらに、たし算・ひき算から かけ算・わり算まで、じつにユニークな教え方です。そして、この指導法は幼児期の知能と心理の発達に合わせ、子どもが無理なくわかるように、また、お母さんが容易に教えられるように工夫されています。

子どもの大切な能力もお母さんが教育に無関心では伸び悩んでしまうでしょう。ですから、この本は算数の教え方を扱ったものでありますが、それだけではなく、子供の教育について、お母さんがどういう心がまえを持つべきかを、いろいろな実例でわかりやすく説明しています。」

昨日インターネットで、勿論 古本ですが入手しました。是非お手もとに。
書籍名「ボクできちゃった」——5歳までの算数の教え方——

珠 吟

しゅげん ー68ー

思い出に残る教室運営を！

私達は、1年365日、日々、教室でそろばん学習を通じて生徒達と接し、色々と膨大な体験をしています。しかし、思い出に残るものは山ほどあるものではありません。また、教室を運営してきた年数に比例して、思い出が多くあるわけではないでしょう。

『物事は自分が理解し、心が動かされてこそ、現実のものになり、感動したことが、思い出となって記憶されるもの』と、ある人の言葉です。携帯メールの受信メールや送信メールの履歴が残っていたとしても、一度も認識されることがないものは、思い出にはなりません。同様に、私達が、体調が不十分であったり、種々の行事で多忙であったりした時の授業は心に残ることが無く、ただ時の流れのような授業となり、指導者として心を打つものもなく、思い出として残りません。それにひきかえ、授業を充実するために、その準備を充分に行なったときの授業は心に残ることが多いものです。その準備をかけた分に対する授業の反応とその成果を期待するためにも思い出として記憶に残ることがあります。何れにしても、教材準備不足、指導者の心構えの不安による授業は、決してよい思い出とならないことと思う。

私達は、思い出をつくるために教室運営を行っているわけではありませんが、指導者の心、心のなかにある思いがなければ、指導者としてやり甲斐がありません。

「この様な授業をしたい。」「このように指導したい。」「このような生徒を育てたい。」

「どの生徒も意欲をもって学習する授業をしたい」、さらに、「自分のもっている能力を発揮して、授業を進めたい。」など・・・、など。

「今日の授業はこんなことに心が動かされた。」「あの生徒の言葉・表情が忘れられない。」

「心に熱いものを感じさせられた授業であった。」と、授業後、その思いに浸ることもありましょう。これが、よい思い出となり、心に残ることでしょう。

生徒への「思い」「願い」「祈り」・・・。生徒からの「感謝」「感動」・・・などの連続が、教室を運営した証(あかし)となり、よい思い出となるのです。

文化の秋、勉学の秋での授業を一日、一日大切に、どの生徒にもよい思い出が残せるように、また、指導者としてもよい思い出に残る教室運営に心がけましょう。

幼児教育について(2)

岡山県 村松 貴

三つ知識

人間が知識を構成していくには物理的知識、社会的知識、論理・数学的知識の3つがあることを理解したうえで、指導に当たることが重要である。

物理的知識は外部にある事物の性質についての知識。物理的知識の根源は**事物の中に**あり、事物への働きかけとその結果を観察することによって獲得される。

社会的知識は英語や日本語といった言語の知識や、5月5日は「子どもの日」であるとか、朝は「おはようございます」と挨拶するなどの慣習についての知識。その源は人々によって作られた社会的慣習の中にある。

論理・数学的知識は、知的関係づけから構成される。そして、これらの関係づけの源は**1人1人の頭の中**にある。例えば、赤と青のオハジキが示された時、人は違うから**違う**と見なすこともできるし、形が同じだから**同じ**と見なすこともできる。“同じ”とか“違う”といった知識の源はオハジキという事物の中にあるのではなく、2つのオハジキを関係づける人の頭の中にある。もし人が関係づけるということをしなければ論理・数学的知識は存在しない。

2個あるオハジキを数的に関係づけると、オハジキの色や形（物理的知識）は目に見えるが、“2”（論理・数学的知識）は目に見えない。なぜなら、数は頭の中で作り出された“関係”であり、事物そのものではないからである。

子どもは過去に作り出した関係づけを元にして、さらにそれらに関係づけることによって論理・数学的知識を構成し続ける。

この知識の違いを理解したうえで指導するのと、知らないのとでは雲泥の差が出る。

そろばんは400年の歴史を有する日本の文化遺産である。昔と違い情報化の時代には子どもの脳の発達が変わってきている。明治維新を築いた人たちの年齢を考えると、20代30代の人たちが中心になってヨーロッパやアメリカに追いつき追い越せと新しい日本を作った。現代の人は30歳成人説という言葉があるように明治維新の人たちと比べると20歳では大人になりきれない人が多いことからこのような表現がされている。政治家を見ても最近では頼りなく感じる人が多い。

かつて、そろばん学習年齢は、小学校へ塩野直道が珠算を採用した影響もあって小学校3～4年頃に始まっていたが、1960年代頃から少しずつ低年齢化してきた。

3年生頃であれば数概念もできあがっており、指導しても理解できる子どもが多かった。できないのはその子どもが熱心に練習しないからと片付けられても仕方ない時期があった。2年生頃まではまだこれに近い状態ですませられるが、2年生と1年生では数の認識は格段に違う。

1年生の計算ではたし算の考えしか持っていないレベルにあることをご存じの方もあろうが、1年生にはひき算の考えはまだないので、筆算をさせてみると必ず上位の位から計算する。疑うならば2年生が筆算を学習する前に試してみるといい。但し、市販のドリルや親が教える以前の時点であることが条件である。

結 論

「教育」というならば“総合的に”指導することが大切である。そろばんを習いに来ているのだからといきなり“そろばん”を与えてそのことだけ指導するのは教育とはいえない。

ここでいう幼児は4歳児以上を7歳までを指している。4歳になったばかりではまだレディネスにおいても不十分なことが多く、学習もしばらくはその子に合った学習をさせなければならぬ。

本の読み聞かせを母親が毎日してやったり、

対応を少なくした2枚ずつ6種類程度の神経衰弱をさせるとよい。

年長児と一緒にデイリーニュースやビッグブックを読み聞かせをすること。

4歳4～5ヶ月頃になると数に対しても文字に対しても関心を示してくる。数については1～4までのドットカード（トランプでも可）を利用して“4作り”を行う。

1と3で4、2と2も4、4は1枚でも4として認識できるようにする。2～3ヶ月同じゲームを繰り返してもいやがらない。

このくらい長期間すると4歳児が4という数を理解できるようになる。例えば5歳児がいても4歳児と一緒に十分ゲームを楽しむから不思議である。1時間ぐらひはあつという間で終わることだろう。

ドットカードで数を構成させるゲームは4、5、6、7、8、9、と子どもの理解度を観察しながら進み、

次は“数字”を使って5、6、7、8、9、10とやっていく、

先生の中には5がわかったら10も理解できると考えてしまう人がいるが、10は子どもにとっては特別な存在である。

頭の中で $1+1+1+\dots+1$ が構成された上に10があることを理解できなければならぬ。構成できるようになったかどうかを見極めるのはゲームによって観察する。小学3年生に指導するよりきめ細やかにすることが重要であつて、一気に飛び越えさせることはできないのである。

一世を風靡した“百ます計算”は記憶する学習だから子どもの頭の中に数は構成されない。話題性があつたから、全国の小学校教員がこぞつて採用したが、手間を省くための便法でしかない。みんなで渡れば怖くない方式をやつたまでである。文科省でも振り回されるのだから、安心できない。

子どもたちは自分を取り巻く環境と相互作用しながら、自分自身で知識を構成していく。大人から教えられなくても、彼らなりの理論を作り出していろいろなものを理解しようとする。子どもたちが経験から得るものは、彼らがそれをどのように関係づけるか（これが考えるということ）によって決まる。

子どもは「見る」（知覚する）ことによってわかるのではなく、「わかつたこと」（思考する）を見るのである。物事を関係づける（考える）ことによって、子どもたちはより組織化された知識を構成する。そして、彼らの知識がより正確で組織的になればなるほど、子どもたちはより高いレベルでその経験を生かすことが出来るようになる。

わたしにとってのそろばん

大阪 泉 寛子

そろばんの学習によって求めることは、何か？

これで次の世代を担える資質は培うことができるか？

教える内容はこれでいいか？

もっと効率のいい指導方法は？など、私はよく自問自答をします。

自分自身の子育ては終わっているのに、夏は、朝7時からと夕方は5時から おけいこ時間 を増やし、子どもにできるだけ暇を与えず、自分でできる宿題を与え、自立できる おけいこ を目指しています。モンスターペアレントに悩まされた時もありましたが、今はマイペースでの教室運営を展開しています。

珠算の指導内容は、6年前に日珠連の検定内容が変わりましたが、現在も 改訂以前の教材内容で指導、さらに、応用計算や算数などにも力を入れ、中学受験での計算力や算数力・思考力を目標に指導して、常に、そろばんの原点は、「和算にあり」と考えています。

なぜ 多くの人が、習ってよかった おけいこごと としてそろばんを挙げているのでしょうか？

それは、生活により役立つからではないでしょうか。そろばん学習者の学力はどうでしょう？

そろばんをお稽古をしなかった人は、計算力を他の方法で身につけ、速さに固持しない人が多いと思いますが、そろばん学習者は迅速に、正確に計算力を発揮できる知識と、思考力を養成することが必要と思います。その環境を整えるに、私立国立の中学入試の算数力を問う問題を学習させて思考力を高めさせています。

私は、日商1級、初段位程度の珠算力を身につけさせることは必要と考え、当然、その習得により集中力や根気強さも身につきます。さらに、珠算能力と共に知識・学力を身につけるための訓練も必要です。特に、義務教育での内容が乏しくなった現在において、おけいこ教室の使命が重要視されており、計算の基礎能力育成のために「そろばん復活」と言われていることと思います。

そろばんは、和算と一体化されていたこともあり、計算力を生かした指導に重点を置いていかなければと思います。特に、割合に関する問題が苦手な子供が多く、私は、珠算イコール商業計算のイメージを持って指導しているので、商業実務（ビジネス計算）の問題も並行して指導しています。

小学3年生から割合の問題を、4年生から速さを使った問題をも取り入れるようにしています。

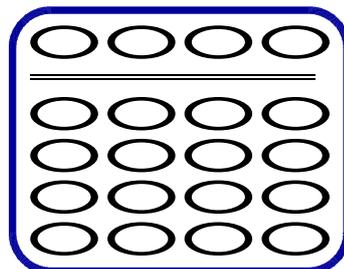
しかし、生徒の中には、単純な計算をのみを好み、思考力を不得手とする子がいます。

どうしても嫌がる生徒には転塾を勧めることもあります。学ぶ気持のない子を説得するのは 親の役目だと思いますので、その点は割り切るように心がけています。暗算、そろばんだけの学習だけでは手ごたえが不十分でしたが、指導方針をはっきり打ち出してから生徒のやる気、学ぶ気、実力は伸びてきたので、今までにない満足感を感じています。

珠算団体に所属していない私が生徒によりクオリティの高い計算力を提供し、生徒の成長を楽しめる仕事としてこれからもそろばんを普及していきたいと思っています。

「暗算指導」 -10

わり暗算は 実数を珠に変換し、法数を見て、商を立て
実数の珠から減算して商を求める。



②2桁のわり暗算(法2桁の計算)

$$2,880 \div 32 =$$

1. **指導の第一歩**：最初は「あんざんカード」を使って、実数を珠に変換し法数を見ながら、商をたてる。商を書きながら、実数から(商×法)を減じ、実数の残像から、商をたてて、その実数から(商×法)を減じて、商を求める。

最初は、商を書きながら、「あんざんカード」の実数から減算して計算するが、商も珠の写像として残し、商は部分書きでなく、一度書きするように練習する。

計算の順序を「あんざんカード」の上でしっかりと覚え、珠の写像をイメージして計算する。また、指付(1の位に)を励行して、実数の残像をイメージして、正確に計算する。

すなわち、計算する順序を覚えながら、「あんざんカード」の上で指をついて減算し、珠のイメージを確かめて、商(答え)を一度に書くように練習する。

2. **指導の第二歩**：最初は商を書き、実数の珠イメージから減じ、さらに残りの実数から商を求め、商×法数を減算して、商を求めるが、慣れれば、商は一度書きをする。さらに、繰り返し反復練習するとともに、間違えた問題には、正して、繰り返し練習し、間違えたパターンを認識する。

3. **指導の第三歩**：珠のイメージが確定した生徒には「あんざんカード」なしで各問題の下で、実数を珠に変換して、商を立てて、指を動かして計算する。暗算検定2級問題を反復練習しましょう。

さらに、指を動かさなくて珠のイメージのみで計算できるように練習する。

【珠の写像】

1785 ÷ 85 =	21785	178 - 2 × 80 = 18
	20185	18 - 2 × 5 = 8
	20085	85 - 1 × 80 = 5
	20005	5 - 1 × 5 = 0
	21	

大商分銅杯争奪近畿小中学性珠算競技大会の問題集

(第1回大会～第3回大会問題)の頒布

第1回～第3回大会の総合競技・同点決勝問題・種目別競技問題を1冊にした問題集。

解答付。価格は、1000円、送料は300円。

ご希望の方はは幼珠連事務局FAX06-6902-1022へ

珠算大会と珠算教育振興をめざして

事務局長 大西 信二

5年前、母校同窓会の会長を引き受ける折、母校の商業教育の振興を願い、高校受験時に珠算技能を持つ中学生を特別入学できる制度を提言しました。現在の商業科の生徒もほとんどが大学への進学希望で、大学進学時に日商簿記2級の資格をとることが、商業科の生徒にとって重要な課題であり、そのために、高校入学時に珠算1級の計算能力を習得していると、商業教科、特に簿記の理解とその修得には役立つものです。学園の理事会で種々検討され、日商珠算1級をもつ中学生への優先入学制度を設けることになりました。

後日、大阪府珠算連合や近畿珠算連合の会合で、その決定した事項を報告するが、母校の知名度が低く、学校の所在地が理解されていないことに吃驚。大阪府下に私学は100数校はあるが、創立120年の古く伝統のある高校であり、卒業生としては当然、認識されていると思ったが、意外に知られていないのには驚きました。

早速、学園理事者に報告し、その対策として学園をPRし、商業教育を遂行させるために近畿一円の小中学生を集いての珠算競技大会を開催することに決まりました。

学園創立120周年記念事業の一環として、6階のミレニアムホール(298席)を会場として、平成17年11月3日(祝)第1回近畿小中学生珠算競技大会を開催となりましたが、同年9月1日から受付を開始後、2週間ほどの短期間で参加定員(298名)になり、多くの珠算先生方やその塾生にお断りし、ご迷惑をかけてしまった記憶があります。

翌年11月の第2回大会から会場を体育館に移し、クラブ活動部員や在校生の協力により、教室の机を体育館に運び入れて大会の会場作りを行い、参加選手364名と119名の卒業生・教職員と珠算教育者の協力を得て行うことができました。

嘗ての国民珠算競技大会を彷彿させるような雰囲気をもつ大会に心がけ、午前中に総合競技と特別競技、午後から8種目毎の種目別競技を行い、大会のムードをあげることができました。近年の珠算教育をご存じない学園理事長から、「そろばん大会は戦前の日本の教育が生きている!」と、語っておられたのが印象的でした。演技委員の一言で、計算を開始。1秒、1秒を争う計算で正確性と迅速性を競う小中学生の姿に感動されたようです。

この大会も皆様のご支援のお陰で、年々参加者数が増え、第3回大会では396名の小中学生、第4回大会では431名の小中学生が近畿各地から参加され、珠算教育熱も年々高まり、毎回100名を超える珠算の先生方の協賛を得て盛会に実施しています。

今年は第5回大会として最終の大会となります。学園創立120周年事業として開催した関係で、学園教育の方針の「仁・義・礼・智・信」の五常の徳の完成の大会です。

今大会も学園では、9月1日から郵送にて参加者を受付けています。参加料など費用は一切不要で10月3日まで受付ですが、定員(500名)に達しますと締め切らせていただくことになっています。問題程度は、小学生は日商2級問題、中学生は日商1級問題を8分タイムで総合競技の珠算種目が行われ、さらに、小学生は日珠連2級暗算問題、中学生は日珠連1級暗算問題を2分タイムで、総合競技の暗算種目です。先生方の教室の生徒の皆さんにも参加していただき、そろばん文化の祭典である珠算競技大会を体験されますようお奨めします。また、観覧席も用意しておりますので、観戦もお奨めします。

「観る」と「聴く」の習慣をつけよう！

日本書芸院参事 瀬戸 白鳳

書写の練習をする時、文字構造を3視点（形・安定・躍動）から分析的に観察をする習慣をつけることは再々言ってきたことである。

和語の「みる」と漢語の「見る、視る、観る」とは、内容が随分と相違する。漢語は実に分析的である。

「見る」～単に事象を見るだけに終わる。見聞、見学～See

「視る」～目をじっと止めてみる。視力、視界～Look

「観る」～念を入れて良くみる。観察、観測～Watch

お手本をみる時、単に見るだけでなく、手本の見方を知り、念を入れて良く「観る」習慣をつけて欲しい。念を入れてみるには、先ずは分析的、理論的に考えを発展させることが良い。これも3P方式の考え方である。

次に、先生の言葉にはしっかりと耳を傾けて、良く咀嚼して「聴いて」欲しい。「きく」を分析的にみると

「聞く」～単に聞くだけ。風聞、伝聞～Hear

「聴く」～耳を傾けよくきき、内容を会得する。聴取、聴力～Listen

先生の話を聞く時は、そのポイントを単に聞くのではなく、よく「聴く」ことが大切である。般若心経の冒頭の一節に「歓自在菩薩」とあるが、一般には「観世音菩薩」とか「観音さん」と呼ばれて、親しまれている。「世音」はこの世の人々の苦しみ、悩む声を深く「観て」、人々の苦悩を救いとる意味である。

お手本をよく「観て」、先生の話をよく「聴き」、そして出来上がった作品を再度、「自己批評」に掛ける。きっと素晴らしい書写ができるでしょう。

次に、何事に対しても、成功の鍵は「集中力」である。書写については、特に大切に、「観る」「聴く」ことに気持ちを集中させることによって、考えが深くなり、見えないもの、気づかないことに気がつき、観えてくるようである。

書学者が集中できる環境づくりが、まず第一である。そのためには、先ずは「つかみ」から入って、その場を和ませることから始まる。後は周到な指導内容の組み立てとその内容に、巾をもたす。興味深く、夢中になること例えば、書写技術の指導だけでなく、漢字の成り立ちから、出来ればその漢字の持つ思想など、日常生活に益する題材の選択も忘れてはならないことである。

時には、厳しく、その成果には惜しみない賞賛を、彼らは、やる気が盛り上がり、集中力も出来るのである。

書学者が学ぶなら、指導者も日夜、弛まない勉強を怠ってはならない。例えば、読書、会話、法帖臨書等々何からでも貪欲に吸収すべきである。

大商学園分銅杯争奪第5回 近畿小中学生珠算競技大会

主催：大商学園高等学校・大商會（同校同窓会）

後援：日本商工会議所・大阪府教育委員会・大阪商工会議所・豊中商工会議所・日本珠算連盟
 (社)全国珠算教育連盟・(社)全国珠算学校連盟・近畿珠算団体連合会・(社)大阪珠算協会
 (社)兵庫県珠算連盟・大阪府珠算協会・大商学園PTA

平素は、当学園の教育活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、珠算は、我が国特有の計算技術として、永い歴史と伝統を有して参りましたが、近年「そろばん」が、計算器具から教育器具へと変遷しました。現代のコンピュータ社会にあつて、そろばん学習で得た珠算式暗算力は、その操作の正確性、迅速性を高め、事務能率の増進として大きな役割を果たしております。また、最近では脳科学の研究が進み、そろばん学習が脳の司令塔といわれる前頭前野を鍛えることが判明し、青少年の人格の育成にも必要なものと存じます。

当学園では珠算教育のこのような重要性を認識し、創立120周年記念行事の一環として近畿二府五県の小中学生を対象とした第5回近畿小中学生珠算競技大会を下記の通り開催する運びになりました。大会の運営にご賛同いただき貴校の小中学生を本大会に派遣くださいますようお願い申し上げます。

大会要項

1. 日時：平成21年11月3日(文化の日)午前10時30分開会(受付：10時
午後5時閉会)
2. 会場：大商学園高等学校 大阪府豊中市利倉東1丁目2(阪急・宝塚線「明徳駅」下車 西へ徒歩10分)
3. 参加資格：近畿二府六県の小学生・中学生
4. 部門：①中学生の部 ②小学生の部 各部とも一校6名以下
5. 申込手続：1. 参加希望者は別紙申込書に必要事項を明記し、下記事務局まで郵送で申込みください。
2. 参加料は不要。申込書に校長印のない学校は個人参加とします。
3. 申込は平成21年9月1日(火)から10月3日(土)まで。
4. 申込期日までに定員に達した場合は、申込みをお断りすることもあります。
5. 申し込みを受付け後10月17日(土)までに選手票を郵送します。
6. 競技種目と程度

①団体・個人総合競技 ※団体得点は高得点上位3名の得点による。

種目	題数	時間	中学生問題	小学生問題
かけ算	20題	8分	法実あわせて11桁 (日商珠算検定1級問題程度)	法実あわせて9桁 (日商珠算検定2級問題程度)
わり算	20題	8分	法商あわせて10桁 (日商珠算検定1級問題程度)	法商あわせて8桁 (日商珠算検定2級問題程度)
みとり算	10題	8分	10桁10口加減算 (日商珠算検定1級問題程度)	8桁10口加減算 (日商珠算検定2級問題程度)
かけ暗算	20題	2分	法実あわせて5桁 (日珠連暗算検定1級問題程度)	法実あわせて4桁 (日珠連暗算検定2級問題程度)
わり暗算	20題	2分	法商あわせて5桁 (日珠連暗算検定1級問題程度)	法商あわせて4桁 (日珠連暗算検定2級問題程度)
みとり暗算	10題	2分	3桁10口30字加減算 (日珠連暗算検定1級問題程度)	3桁7口21字加算 (日珠連暗算検定2級問題程度)

②特別競技：フラッシュ暗算

③種目別競技乗算・除算・見取・読上算・乗算・除算・見算・読上暗算から申し込み時に2種目選択

7. 答案記入の注意：コンマ・小数点は必要、日商珠算検定規則に準拠。
8. 表彰：団体の部(各部)優勝1校、準優勝1校、2等3校、3等5校、優秀校10
個人の部(各部)優勝1名、準優勝1名、2等5名、3等10名 優良若干名
但し同点の場合、同位とする関係上、表彰者数が若干変動することもあります。

※優勝団体・優勝者・準優勝団体・準優勝者には「分銅杯」を授与。(持ち回り)

9. 大会前日の正午までの名義変更は認めておりますが、当日の名義変更はお断りします。

10. 当日の昼食弁当を用意しておりますので、希望者は参加申込書でお申し込みください。

※大会の参加申込書はURL: <http://www.osakasyuzankenkyusyo.com>に掲載しています。